



公益社団法人

# 日本水産資源保護協会

## 季報

2018年 **春** 通巻555

第11巻 第1号

### C O N T E N T S

**話題の広場** マリン・エコラベル・ジャパン協議会の最近の活動について

一般社団法人 マリン・エコラベル・ジャパン協議会 専務理事 長岡 英典 …… 3

◆事業の紹介 …… 5	◆会議の報告等 …… 11
マリン・エコラベル・ジャパンの認証を取得しました	平成29年度水産資源保護啓発研究事業
養殖エコラベルの認証を取得しました	平成30年度水産資源保護啓発研究事業
	◆お知らせ …… 14

#### 復興水産加工業等販路回復促進事業の案内

被災地現地見学バスツアー …… 2
マリン・エコラベル・ジャパン／養殖エコラベル
認証水産物見本会 築地で開催 …… 15
認証証書授与式開催 …… 16



### 開催決定！

「繋がる・繋げる」をテーマに  
東北の水産加工品が一堂に集結！

**東北復興水産加工品  
展示商談会2018  
Tohoku Reconstruction  
Fishery Products Exhibition 2018**

日時：2018年6月12日（火）～6月13日（水）

会場：仙台国際センター展示棟

仙台市地下鉄東西線国際センター駅下車徒歩1分

主催：復興水産加工業販路回復促進センター

【構成団体】東北六県商工会議所連合会 / (一社) 大日本水産会 / 全国水産加工業協同組合連合会 / (公社) 日本水産資源保護協会

# 平成29年度 復興水産加工業等販路回復促進事業 被災地現地見学バスツアー

被災地における風評被害対策への理解及び福島産水産物の販路回復のため、被災地現地見学バスツアーを催行しました。

本ツアーは、主に関東圏・関西圏のバイヤー等を対象に、被災地の魚市場や加工場等を見学し、安全安心の取組を確かめることで、震災により失われた販路の回復、拡大につなげてゆくものです。

## 福島県いわき市・大熊町 平成30年2月27日 ～28日

### 参加者の声

- ・検査体制、衛生管理状況について安全安心を確認した。被災地の水産物を拡販したいので、早く本格操業してほしい。
- ・被災地の水産物が市場に流通するようになれば、積極的に購入したい。
- ・メディアの報道だけでは伝わらない、理解できないことが多く学べた。今後も経過を見ることができるとよいと思う。
- ・事前に知っていた情報よりも、より細やかに忍耐強い対応をされていて、頭の下がる思いだった。復活に向けての準備は整っており、あとは本格的な水揚げを待つばかりだ。



小名浜魚市場・放射能検査施設の見学



小名浜魚市場・荷捌施設の見学



福島第一原発入構前の概要説明



2号機原子炉建屋の作業状況

## 青森県八戸市 平成30年3月6日 ～7日

### 参加者の声

- ・どの施設も徹底した衛生管理がなされており、学ぶ点が多かった。
- ・至急、取り扱いたいと思い、現地でサンプルの依頼をした。今後も被災地の水産物、水産加工品の拡販を行いたい。
- ・現地を直接見ることで被害の大きさ、被災後のご苦労を知ることができた。既に商品の扱いはあるが、今後益々販売の拡大に努力したい。
- ・放射能について、地元の研究機関で真摯な取り組みを行っていることを理解した。また商品開発など、地元加工業者に寄り添って支援する誠実な活動に感激した。



HACCP 加工場の見学



第三魚市場の見学



食品総合研究所での講義



加工業者による展示試食

# マリン・エコラベル・ジャパン協議会の 最近の活動について

一般社団法人 マリン・エコラベル・ジャパン協議会 専務理事 長岡 英典

マリン・エコラベル・ジャパン (MEL) 協議会が設立され、MEL の国際標準化、認知度の飛躍的な上昇に取り組んで約1年半が経ち、まだまだ険しい道のりではあるものの、そのかたちや目の目標が具体的に見えてきています。これを大きなものから小さなものまで、以下のような活動で紹介していますので、関係者あるいは事業者の皆様へ引き続きの注目とご支援をお願いします。

## ① 最近の動き

4月に「MEL 協議会通信」を創刊しました(下記掲載)。ここに活動の主な内容をわかりやすく掲載することで、紹介、報告に代えさせていただきます。

原則、毎月発刊します。

## ② 組織

4月から事務局の体制が整い、事務所に担当者が常駐となりました。

事務局長とその下に事業担当課長、総務担当課長と事務局員の4名で、うち2名以上が事務所に常時在席しています。今後さらに充実させていく予定です。

## ③ ホームページ

2月にリニューアルを行いましたが、さらに充実をはかり、本誌が発行される頃には英文のバージョンも公開される予定です。《 <http://www.melj.jp/> 》

## ④ 会員募集

GSSI (Global Sustainable Seafood Initiative) への承認申請にある程度が目途が立ってきましたので、3月よりまず理事の所属する組織へ順次入会のお願いをしています。

水産資源の持続的利用についての理解は案外に進んでいますので、多数のご賛同・ご入会が期待されます。



## MEL 協議会通信第1号(創刊号) -抜粋-

MEL も一般社団法人として発足してから1年5か月目に入りました。この間、皆様のご支援をいただき多方面の活動を進めて参りましたが、内部固めの段階からようやく次のステップである国際標準化の入口となる GSSI への承認申請準備までたどり着くことが出来ました。

活動状況は逐次ホームページに掲載しておりますが、今月から「MEL 協議会通信」として皆様にトピックスをお届けすることにいたします。皆様のさらなるご指導とご支援を賜れば誠に幸いです。

### 1. MEL 認証規格の発効について

- ① MEL 漁業認証規格 (Ver.2.0)、流通加工段階認証規格 (CoC, Ver.2.0) が2018年2月1日に発効しました。
- ② MEL 養殖認証規格 (Ver.1.0) が2018年3月9日に発効しました。
- ③ 認証規格はホームページに掲載しております。

### 2. MEL と認証機関との間の覚書締結について

MEL は認証機関として(公社)日本水産資源保護協会(略称:日本水産)を指名していますが、2018年1月31日付で業務に関する覚書を締結し、「認証機関への要求事項」(漁業:2017年10月3日理事会で決議、流通加工:同じく2017年10月3日理事会で決議、養殖:2018年3月9日理事会で決議、いずれもホームページに掲載)

に基づいて、日水資が定める「審査業務規則」にのっとり審査を行う体制を確立しました。その上で、GSSI 承認申請に必要な実地審査の準備を進めているところです。

認証機関につきましては、公平性、透明性の観点から現在の日水資を含め複数体制とすることを検討しており、本年度下期には具体化をしたいと考えています。

### 3. MEL と AEL の統合について

MEL は、すでに養殖認証を行っている AEL のスキームオーナーである（一社）日本食育者協会との間で、将来的に双方が運営するスキームを MEL に統合することで合意し、2018 年 3 月 16 日ホームページ上に公開しました。

出来る限り早期に共同記者会見を行い、取り決めの詳細を説明する予定です。



(AEL のロゴマーク)

AEL 養殖認証取得者（35 件）は認証の有効期間（認証取得から 5 年間）は AEL の認証ロゴマークの使用を継続することが出来ますが（AEL は 2020 東京オリンピック、パラリンピックの食材調達基準に認められている）、MEL スキームが定める規定に従って審査を受け合格したら MEL に移行することが可能になります。

また、今後 MEL が開催する各種説明会、セミナー等に AEL の認証取得者あるいは取得希望者を招くことを考えています。

### 4. MEL の旧認証規格による審査の継続について

2020 東京オリンピック、パラリンピック開会まで 2 年余りとなり生産者、流通加工事業者の間で認証取得への関心が高まっており、申請が続いています。

MEL の新認証規格（漁業：Ver.2.0、流通加工：Ver.2.0、養殖：Ver.1.0）はすでに発効していますが、審査機関である日水資では新規格による審査体制が整っていない（日水資も国際標準化の認定を求められており、（公財）日本適合性認定協会（略称：JAB）の認定取得を準備中であることと、認定審査員に対する新規格のトレーニングが出来ていない）状況にあり、とりあえず急いで取得したい申請者については、旧規格（漁業：Ver.1.0、流通加工：Ver.1.0）で認証審査を行うという苦肉の対応をとらざるを得ない状態になっています。

この結果、2018 年 1 月 1 日に 28 件であった漁業認証は、2018 年 3 月 31 日現在 44 件まで急増しています（MEL と日水資のホームページに公開）。

新規格による認証審査受け付けは、GSSI の審査状況の目途が立ち、かつ日水資の審査体制が整う今秋（11 月頃）を想定しており、当面このような変則的な状態が続くこととなります。

MEL の GSSI の承認取得後は、順次新規格で更新審査を受けていただくこととなります。

### 5. JAB のプレスリリースについて

前記の（公財）日本適合性認定協会（JAB：MEL の審査機関である日水資が認定取得の取り組み中）は 2018 年 3 月 29 日付で「水産エコラベルの認定プログラム開始」をプレスリリースしました。養殖認証について 3 月 30 日の技術委員会の決議、パブリックコメントを経て先行している漁業認証、流通加工段階認証に追いつき認定申請可能な状態になります。

JAB は IAF（International Accreditation Forum）加盟の海外認定機関と相互承認をしており、日水資の JAB による認定取得は、MEL の GSSI の承認取得とともに MEL スキームの国際標準化を担保する重要な要件となります。

2018年3月29日

公益財団法人 日本適合性認定協会

**【プレスリリース】**

**新たに養殖業を加え、5月スタート  
国産を世界の市場へ  
日本発の水産エコラベル 認定プログラム開始  
水産資源の持続可能な管理を**

マネジメントシステムをはじめとした総合認定機関の公益財団法人日本適合性認定協会(略称:JAB、所在地:東京都品川区、理事長:飯塚悦功)は、日本発の水産エコラベルの認証機関の認定プログラムを2018年1月30日に開始しました。そして、2018年5月初旬に、先行していた漁業認証の認定に、養殖業認証が加わります。

JABのプレスリリースにより、MELは日本の社会で自他ともに「日本発の世界に通用する水産エコラベル」として期待されることになり、その期待に応えるべく事務局一同心を引き締めて取り組んで参ります。どうかよろしくお願いいたします。

**事業の紹介**

**マリン・エコラベル・ジャパンの認証を取得しました**

**マリン・エコラベル・ジャパン (MEL ジャパン) とは**

水産資源と海にやさしい漁業を応援する制度として2007年12月に発足しました。この制度は、資源と生態系の保護に積極的に取り組んでいる漁業を認証し、その製品に水産エコラベルをつけることにより、このような漁業を奨励・促進するものです。当協会はマリン・エコラベル・ジャパンの審査機関です。

今回、マリン・エコラベル・ジャパンの生産段階認証を18業種4社、流通加工段階認証を9社が取得しました。詳細は次のとおりです。

**福島県漁業協同組合連合会**

**生産段階認証**

漁業名：福島県ひらめ沖合底びき網漁業

認証番号：JFRCA28AA

漁獲方法：沖合底びき網漁業

漁業名：福島県ひらめ小型機船底びき網漁業

認証番号：JFRCA28AB

漁獲方法：小型機船底びき網漁業

漁業名：福島県ひらめ固定式さし網漁業

認証番号：JFRCA28AC

漁獲方法：固定式さし網漁業

漁業名：福島県ひらめ釣り漁業  
 認証番号：JFRCA28AD  
 漁獲方法：釣り漁業

【共通事項】

認証対象魚種：ヒラメ  
 漁場：福島県周辺海域



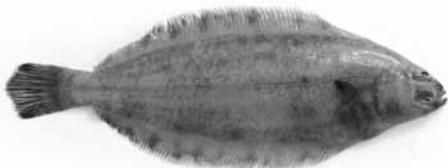
ヒラメ

漁業名：福島県やなぎむしがれい沖合底びき網漁業  
 認証番号：JFRCA28BA  
 漁獲方法：沖合底びき網漁業

漁業名：福島県やなぎむしがれい小型機船底びき網漁業  
 認証番号：JFRCA28BB  
 漁獲方法：小型機船底びき網漁業

【共通事項】

認証対象魚種：ヤナギムシガレイ  
 漁場：福島県周辺海域



ヤナギムシガレイ

漁業名：福島県こうなご機船底びき網漁業  
 認証番号：JFRCA28CA  
 漁獲方法：機船底びき網漁業  
 認証対象魚種：コウナゴ  
 漁場：福島県周辺海域



コウナゴ

漁業名：福島県ほっき貝けた網漁業  
 認証番号：JFRCA28DA  
 漁獲方法：貝けた網漁業  
 認証対象魚種：ホッキガイ  
 漁場：福島県周辺海域



ホッキガイ

漁業名：福島県あわび漁業  
 認証番号：JFRCA28EA  
 漁獲方法：あわび漁業  
 認証対象魚種：アワビ  
 漁場：福島県周辺海域



アワビ

漁業名：福島県まあなご沖合底びき網漁業  
 認証番号：JFRCA28FA  
 漁獲方法：沖合底びき網漁業

漁業名：福島県まあなご小型機船底びき網漁業  
 認証番号：JFRCA28FB  
 漁獲方法：小型機船底びき網漁業

漁業名：福島県まなごはもかご漁業  
 認証番号：JFRCA28FC  
 漁獲方法：はもかご漁業

#### 【共通事項】

認証対象魚種：マアナゴ  
 漁場：福島県周辺海域



マアナゴ

漁業名：福島県かつおまき網漁業  
 認証番号：JFRCA28GA  
 漁獲方法：まき網漁業  
 認証対象魚種：カツオ  
 漁場：福島県周辺海域



カツオ

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA28AAAA  
 対象者：福島県漁業協同組合連合会  
 対象魚種：福島県産認証水産物  
 流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### 東京都漁業協同組合連合会

#### 生産段階認証

漁業名：伊豆諸島とびうお流し刺網漁業  
 認証番号：JFRCA36AE  
 漁獲方法：流し刺網漁業  
 認証対象魚種：ハマトビウオ  
 漁場：八丈島周辺



トビウオ

漁業名：小笠原諸島縦縄漁業  
 認証番号：JFRCA36AF  
 漁獲方法：縦縄漁業  
 認証対象魚種：メカジキ、メバチ、ソデイカ、キハダ、ピンナガ、クロマグロ  
 漁場：小笠原諸島周辺



メバチ

漁業名：伊豆諸島棒受網漁業  
 認証番号：JFRCA36AG  
 漁獲方法：棒受網漁業  
 認証対象魚種：ナメモンガラ、カンパチ、ヒレナガカンパチ、クサヤモロ  
 漁場：八丈島周辺



カンパチ

#### 糸島漁業協同組合

#### 生産段階認証

漁業名：糸島漁協加布里はまぐり漁業  
 認証番号：JFRCA69AA  
 漁獲方法：手掘漁法  
 認証対象魚種：ハマグリ  
 漁場：八丈島周辺



ハマグリ

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA69AAAA

対象者：糸島漁業協同組合

対象魚種：ハマグリ

(生産段階認証番号JFRCA69AA)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### 郡上漁業協同組合

##### 生産段階認証

漁業名：岐阜郡上あゆ友釣り漁業

認証番号：JFRCA46AA

漁獲方法：友釣り

認証対象魚種：アユ

漁場：郡上漁業協同組合管内



アユ

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA46AAAA

対象者：郡上漁業協同組合

対象魚種：アユ

(生産段階認証番号JFRCA46AA)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### いわき市漁業協同組合

##### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA28AAAD

対象者：いわき市漁業協同組合

対象魚種：福島県産認証水産物

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### 小名浜機船底曳網漁業協同組合

##### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA28AAAE

対象者：小名浜機船底曳網漁業協同組合

対象魚種：福島県産認証水産物

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### 相馬双葉漁業協同組合

認証番号：JFRCA28AAAF

対象者：相馬双葉漁業協同組合

対象魚種：福島県産認証水産物

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### 相馬市磯部地区水産物加工業協同組合

認証番号：JFRCA28AAAG

対象者：相馬市磯部地区水産物加工業協同組合

対象魚種：福島県産認証水産物

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### 築地魚市場株式会社

##### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA28AAAB

対象者：築地魚市場株式会社

対象魚種：MEL認証魚全て

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

#### 大都魚類株式会社

##### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA28AAAC

対象者：大都魚類株式会社

対象魚種：MEL認証魚全て

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

## 養殖エコラベルの認証を取得しました

### 養殖エコラベル：Aquaculture Eco-Label（AEL）とは

持続可能な養殖業の発展に資するための、FAO（国連食糧農業機関）の養殖認証に関する技術的ガイドラインに基づき、ISO 認証の仕組みに沿った認証制度です。当協会は、認証機関として第三者の立場で AEL 取得希望者が取得基準を満たしているか審査を行います。

今回、養殖エコラベルの生産段階認証を 8 業種 5 社、流通加工段階認証を 7 社が取得しました。詳細は次のとおりです。

### 鹿児島ヨンキュウグループ

#### 生産段階認証

鹿児島ヨンキュウグループ 2 養殖業

認証番号：JFRCA331801A、JFRCA341801A

対象者：鹿児島ヨンキュウグループ

認証対象魚種：ブリ、カンパチ

養殖漁場：鹿児島県海面

養殖方法：小割生簀養殖法



ブリ

### 東都水産株式会社

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA201712AD

対象者：東都水産株式会社

原材料魚種：ブリ (JFRCA201712A ・

JFRCA261712A ・ JFRCA331801A)

マダイ (JFRCA211712A ・

JFRCA271712A)

カンパチ (JFRCA221712A ・

JFRCA281712A ・ JFRCA341801A)

ヒラマサ (JFRCA231712A)

シマアジ (JFRCA241712A)

クロマグロ (JFRCA251712A)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

### 株式会社丸庄水産

#### 生産段階認証

株式会社丸庄水産 3 養殖業

認証番号：JFRCA201801A、JFRCA211801A、  
JFRCA221801A

対象者：株式会社丸庄水産

認証対象魚種：カンパチ、ブリ、マダイ

養殖漁場：垂水地先海面

養殖方法：小割生簀養殖法



カンパチ

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA2011801AA

対象者：株式会社丸庄水産

原材料魚種：カンパチ (JFRCA201801A)

ブリ (JFRCA211801A)

マダイ (JFRCA221801A)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

## 株式会社森養魚場

### 生産段階認証

岐阜森養魚場あゆ養殖

認証番号：JFRCA351802A

対象者：株式会社森養魚場

認証対象魚種：アユ

養殖漁場：大垣市、海津市、輪之内町

養殖方法：池中養殖



アユ

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA351802AA

対象者：株式会社森養魚場

認証対象魚種：アユ (JFRCA351802A)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

## 豊築漁業協同組合

### 生産段階認証

豊築漁協かき養殖

認証番号：JFRCA361802A

対象者：豊築漁業協同組合

認証対象魚種：マガキ

養殖漁場：宇島沖

養殖方法：垂下式養殖



マガキ

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA361802AA

対象者：豊築漁業協同組合

認証対象魚種：マガキ (JFRCA361802A)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

## 有限会社丸久水産

### 生産段階認証

三重丸久水産くろまぐろ養殖

認証番号：JFRCA371803A

対象者：有限会社丸久水産

認証対象魚種：クロマグロ

養殖漁場：南伊勢町沖合

養殖方法：小割生簀



クロマグロ

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA371803AA

対象者：有限会社丸久水産

対象魚種：クロマグロ (JFRCA371803A)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

## 三重県漁業協同組合連合会

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA191703AB

対象者：三重県漁業協同組合連合会

対象魚種：マダイ (JFRCA191703A)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

## 大都魚類株式会社

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA201712AC

対象者：大都魚類株式会社

対象魚種：AEL 認証魚全て

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

平成 29 年度水産資源保護啓発研究事業

平成 29 年度に実施した巡回教室、コンサルタント派遣、ブロック研修会の概要は以下のとおり。

\*表の「回」は通し番号です。

巡回教室の開催

回	開催日	派遣依頼 機 関	開催場所	課 題	内 容	講師氏名 (敬称略)
22	11月9日	広島県	広島市	アユの放流効果を高めるには？	アユを増やすには、天然アユを増やすかアユの放流効果を高める必要がある。①冷水病対策 ②カワウ対策 ③河川環境 ④高密度放流 ⑤早期・小型放流について解説を受ける。	栃木県水産試験場 高木優也
23	11月27日	福岡県	朝倉市	福岡県内水面漁業の振興についてー現場から考えるー	福岡県内水面漁業が抱える課題について、将来に向け現場から考えた対策、実践可能な方策について解説を受ける。	徳島大学 浜野龍夫
24	2月22日	青森県	十和田市	サケマス類の市場と競合～海面養殖サーモンを中心に～	①現代におけるサケマス市場の全体像 ②多様なサケマスのアイテムとその特徴 ③拡大する生食市場に参入を狙う国産「ご当地サーモン」 ④サケマスの競合・代替・序列 ⑤今後のサケマス市場と「ご当地サーモン」への期待 の各ポイントから水産物市場における国産海面養殖サーモンの可能性について解説を受ける。	鹿児島大学 佐野雅昭
25	2月23日	山形県	鶴岡市	サメ類の臭気発生メカニズムと鮮度保持に関する勉強会	軟骨魚類は一般的な魚と品質劣化過程が異なり、鮮度評価や高鮮度化への取り組みがほとんど行われていない状況である。臭気発生のメカニズムや臭気抑制の取り組みについて解説を受ける。	水産研究・教育機構中央水産研究所水産応用開発研究センター 大村裕治
26	3月6日	栃木県	宇都宮市	魚が利用しやすい魚道と魚にやさしい川づくりをめざして	河川は普段と増水時では流れ方が異なり、それを理解したうえで増水時でも魚が利用できる魚道の設計が必要である。また、魚を誘導できていない魚道が多く、魚道の入り口を魚に感知させるような構造の魚道など、魚が利用しやすい魚道について解説を受ける。	日本大学理工学部 安田陽一

コンサルタントの派遣

回	開催日	派遣依頼 機 関	開催場所	課 題	内 容	講師氏名 (敬称略)
3	7月28日	山梨県	甲斐市 笛吹市	観賞魚輸出の現状と課題	錦鯉輸出の現状と輸出に求められる書類や様式の記入方法や物品等の保管について指導を受けた。	新潟県内水面水産試験場 佐藤 将

ブロック研修会

回	開催日	派遣依頼 機 関	開催場所	会議名称	課 題	講師氏名 (敬称略)
4	2月8日 ～9日	長野県	東京都 港区	平成29年度全 国湖沼河川養殖 研究会アユ資源 研究部会	アユ資源の増殖と管理について	全国内水面 漁業協同組 合連合会 内田和男

平成30年度水産資源保護啓発研究事業

平成30年度の巡回教室・コンサルタント派遣・ブロック研修会における講師派遣事業の認定および平成30年度漁村研究実践活動の認定を決定しましたのでお知らせ致します。

平成30年度 巡回教室・コンサルタント派遣事業課題一覧

都道府県	区別	開催場所	派遣予定講師		課題
青森県	巡回教室	十和田市	浜野龍夫	徳島大学	魚道のはなし
岩手県	巡回教室	釜石市	山本麻希	長岡技術科学大学	沿海地区におけるカワウの効果的な被害防止対策
秋田県	巡回教室	秋田市	坪井潤一	中央水産研究所内水面研究センター	個人レベルでもできる溪流魚保全
山形県	コンサルタント	天童市	大越徹夫	全国内水面漁業協同組合連合会	内水面漁業の現状と課題
栃木県	巡回教室	宇都宮市	奥山文弥	東京海洋大学	釣りによる地域活性化に向けて
群馬県	巡回教室	前橋市	坂本 崇	東京海洋大学	魚類の育種
石川県	コンサルタント	羽咋郡	今井 智	瀬戸内海区水産研究所	マス類の海面養殖について
山梨県	コンサルタント	甲斐市	浅枝 隆	埼玉大学大学院	魚類に適した川づくり
長野県	ブロック研修会	松本市	山本剛史	増養殖研究所養殖システム研究センター	低魚粉飼料の現状と課題
			鈴木秀和	フィードワン株式会社	水産育種が飼料へもたらす影響について
静岡県	巡回教室	静岡市	坪井潤一	中央水産研究所内水面研究センター	早期小型アユの放流効果について
愛知県	巡回教室	西尾市	山本民次	広島大学大学院	瀬戸内海の貧栄養化による漁獲量減少とその対策
滋賀県	ブロック研修会	東京都	玉手 剛	標津サーモン科学館	野生サクラマスを対象とした生活史進化研究
			谷口義則	名城大学	養殖イワナを放流せず持続可能な遊漁資源を生み出す方法
京都府	巡回教室	宮津市	伊藤 篤	瀬戸内海区水産研究所	国内アサリ資源の現状と増殖・資源管理について
兵庫県	巡回教室	洲本市	鳥居享司	鹿児島大学	イカナゴ資源管理
和歌山県	巡回教室	白浜町	内田和男	全国内水面漁業協同組合連合会	良好なアユ漁場を維持するための河川環境保全について
鳥取県	巡回教室	鳥取市	坪井潤一	中央水産研究所内水面研究センター	費用対効果の高いアユ種苗放流方法

都道府県	区別	開催場所	派遣予定講師		課題
島根県	巡回教室	①松江市 ②浜田市	小川和夫	目黒寄生虫館	①延縄・釣における主要魚種の寄生虫と食品安全について ②魚類における寄生虫と食中毒について
広島県	巡回教室	尾道市	南部智秀	山口県水産研究センター	キジハタの放流と資源管理
山口県	ブロック研修会	山口市	浜野龍夫	徳島大学	水産生物の生息環境保全と21世紀の内水面～水辺のこわざ・河川生態系連続の復元～
			田子泰彦	富山県農林水産総合技術センター水産研究所	
	ブロック研修会	東京都	高橋勇夫	たかはし河川生物調査事務所	近年のアユ資源の現状と地域の取り組みについて
徳島県	コンサルタント	海部郡	中嶋 泰	オフィスMOBA	アワビ漁業の再生
福岡県	巡回教室	朝倉市	坪井潤一	中央水産研究所内水面研究センター	赤字にならないアユ漁場づくり
長崎県	巡回教室	北松浦郡	内田和男	全国内水面漁業協同組合連合会	アユの放流効果について
大分県	巡回教室	玖珠郡	坪井潤一	中央水産研究所内水面研究センター	カワウ対策について
鹿児島県	巡回教室	いちき串木野市	上田幸男	徳島県農林水産総合技術支援センター	アオリイカの資源管理と有効利用について
24府県	25件		28名		

平成30年度漁村研究実践活動助成一覧

都道府県	申請団体名	課題名	実施予定期間
宮城県	宮城県漁業協同組合松島支所青年研究会 宮城県宮城郡松島町高城字浜	松島湾内におけるカキ延縄式養殖施設導入試験	平成30年4月～平成31年3月
千葉県	富津漁業協同組合 千葉県富津市富津	東京湾(第二海堡周辺海域)におけるアワビ資源造成試験	平成30年10月～平成31年3月
	新富津漁業協同組合浅海増殖研究会 千葉県富津市富津	ノリ養殖漁場における魚類食害防除技術に関する研究	平成30年11月～平成31年3月
石川県	七尾湾漁業振興協議会 石川県七尾市袖ヶ浜江町イ部	アカガイ種苗の中間育成・放流手法の改善	平成30年9月～平成31年3月
	石川県漁業協同組合加賀支所潜水組合 石川県加賀市小塩	外海地域におけるイワガキ蓄養技術の開発	平成30年9月～平成31年3月
愛知県	衣崎漁業協同組合 愛知県西尾市一色町松木島中切	アサリ稚貝の成長と生残に対する腐植酸鉄の供給効果	平成30年7月～平成31年3月
京都府	京都府漁業協同組合宮津支所 京都府宮津市字溝尻	阿蘇海における天然アサリ稚貝の有効活用	平成30年4月～平成31年2月
和歌山県	新庄漁業協同組合 和歌山県田辺市新庄町	ヒロメ種苗の安定的生産技術の研究	平成30年4月～平成31年3月
広島県	前潟干潟研究会 広島県廿日市市冲塩屋	アサリの垂下式出荷調整試験	平成30年4月～平成31年3月
大分県	大分県漁業士連絡協議会 大分県国東市国東町安国寺	現地で出来るナマコ種苗生産技術確立試験	平成30年4月～平成31年3月
鹿児島県	甕島地区水産改良普及事業推進協議会 鹿児島県薩摩川内市里町里	上甕島なまこ池における資源増殖試験	平成30年4月～平成31年3月
9府県		11案件	

(公社) 日本水産資源保護協会は以下の規格の認証(認定)機関として認められています。

生産情報公表JAS規格:「日本農林規格」(農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律に基づく規格)



食品の生産情報(誰が、どこで、どのように生産したか)を消費者に提供する仕組みとして、「生産情報公表JAS規格」を制定しています。JAS規格制度は、JAS規格を満たしていることを確認した製品にJASマークを付けることができる制度です。国(農林水産大臣)が制定。

MELJapan:『マリン・エコラベル・ジャパン』(Marine Eco-Label Japan)



FAO(国際連合食糧農業機関: Food and Agriculture Organization of the United Nations)の持続可能な漁業の認証のガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。

\*スキームオーナー「一般社団法人 マリン・エコラベル・ジャパン協議会」

\*規格とその認証の仕組みを所有し、運営・維持する主体

AEL:『養殖エコラベル』(Aquaculture Eco-Label)



持続可能な養殖業の発展に資するため、FAOの養殖認証に関する技術的ガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。

スキームオーナー「一般社団法人 日本食育者協会」



● お知らせ ●

「(公社) 日本水産資源保護協会・受託検査について」

当協会では、以下の検査を受託しています。検査の申し込み・詳細は下記までお問い合わせ下さい。

●検査内容

- ・コイヘルペスウイルス(KHV) PCR 検査
- ・コイ科魚類特定疾病検査(KHV およびコイ春ウイルス血症(SVC))
- ・中国向け輸出錦鯉検査
- ・ヒラメのクドア・セブテンpunkタータ検査
- ・カナダ向け輸出餌用マサバの目視検査
- ・ロシア向け輸出水産食品魚病検査(活魚介類検査)
- ・中国向け輸出活水産物検査(目視検査)

●検査方法

農林水産省「特定疾病等対策ガイドライン」、国際獣疫事務局(OIE)監修の疾病診断マニュアルなどに準拠した方法を用います。検査結果は日本語表記あるいは日英文併記の結果報告書を発行します。

●受託検査に関するお問い合わせ・資料請求

公益社団法人 日本水産資源保護協会 受託検査担当  
TEL: 03-6680-4277 FAX: 03-6680-4128  
E-mail: kensa-jfrca@mbs.sphere.ne.jp  
ホームページ: <http://www.fish-jfrca.jp/>



## マリン・エコラベル・ジャパン 養殖エコラベル 認証水産物見本会 築地で開催

水産エコラベル認証を取得している水産物、加工品の見本会が、平成30年3月20日（火）に築地魚河岸小田原橋棟3階魚河岸スタジオ（東京都中央区築地6-26-1）にて、認定機関であるNPO法人水産資源回復管理支援会主催のもと開催されました。

当日は、東京都中央卸売市場（築地）の卸、仲卸業者の方々が来場し、出品者が認証水産物の説明を行いました。

来場者に行ったアンケートで、認証制度の認知度について聞いたところ、マリン・エコラベル・ジャパンは65.9%、養殖エコラベルは53.7%が「知っている」と回答しました。この数字を伸ばしていくべく、引き続きPR活動に努めてまいります。



- 【出品者】
- 株式会社オホーツク活魚（サケ（メジカ）、カスベ）
  - 福島県漁業協同組合連合会（ヒラメ、ヤナギムシガレイ、コウナゴ）
  - 糸島漁業協同組合（ハマグリ）
  - Marine Link 株式会社（マグロ、ソデイカ、養殖ヤイトバタ、養殖モズク）
  - 木村水産株式会社（養殖アユ（串焼き・一夜干し））
  - 株式会社ブルーフィン三重（養殖クロマグロ（伊勢まぐろ））
  - 三重県海水養魚協議会（養殖マダイ（伊勢まだい））
  - 株式会社ヨンキュウ（養殖ブリ、養殖マダイ、養殖カンパチ、養殖シマアジ）

